

ねじあわせ発行にあたって

不易流行の精神のもと、 現在そして未来の社会に貢献する学会へ

2023年度（第101期）会長 伊藤 宏幸



ねじあわせ 2023年夏号の発刊に際し、会誌5月号に掲載された就任挨拶および新会長インタビューを基にメッセージを送ります。およそ3年間にわたる新型コロナ感染拡大により、学生の皆さんの諸活動と同様に、本会の活動も大きく影響を受けました。しかしながら、私たちには、これを乗り越えるだけでなく、経験知として生かしながら、オンライン／ハイブリッド開催などの新たな手法を活用する、よりロバストな体制を構築してきた実績があります。最新のコミュニケーション手法を取り込みつつ、個々の部門においては最高の学術レベルを追究しながら、一方で、複数の部門や支部が連携しながら社会的課題に取り組む学会横断テーマを実施し、分野連携を促進するという「両利きの経営」を旨として学会運営に取り組んで参ります。

1. 本会のブランド価値と機械工学関係者の社会的地位の更なる向上
2. 新部門制の本実施スタートによる部門間連携の強化
3. 財政の健全化と本会の価値向上に向けた事業投資の具体化

現代のブランド論では、コンセプトやコンテンツだけではなく、むしろ参加、体験、共有、共創を伴うコンテキストが重要とされています。本会は、皆さんが社会人として活躍するさまざまな状況において有意義な講習会や講演会を提供し、やがて皆さん自身が積極的に活動をする中で新たな提案、企画する好循環を形成すること、さらに社会的課題のようなプリ・コンペティティブな分野については、独自の論点整理と並行して、議論のためのプラットフォームを本会の内外に提供する、より開放的な姿勢を示すことで、総体として機械工学関係者の社会的地位向上を嚮導するコンテキストに重点をおいた組織でありたいと考えています。

ここで、本年度の基本方針にある「不易流行」について少し持論を披露します。

機械工学といえば、皆さんが大学や高専などで学んだ4力学（機械力学・熱力学・流体力学・材料力学）と制御が基本であり、これが「不易」に相当することに疑問の余地はあり

ません。一方、本会には研究の場として多くの部門があり、次々と新たな分野を受容してきた伝統があります。材料力学に関係した部門では、シュレディンガー方程式を解くことで物質の振る舞いを導く第一原理が、バイオに関係した部門では、標的配列を認識するgRNAと、ヌクレアーゼであるCas9、PAM配列を利用して遺伝子改変を行うクリスパーキャス9が、そして設計工学に関係した部門では、新たな視座による価値生成・交換のメカニズムを扱うサーキュラーエコノミーやサービス科学、話題のChatGPTに代表される生成AIの活用で新たな段階に進む気配のあるオントロジーが論じられています。一つの学会で同時並行してこれほど多様な議論がされている学協会も珍しいかと思います。理想的には、これらをシンセシスすることこそ上述の学会横断テーマや分野連携の神髄と言えますが、今、既にある、このダイナミックな知的環境こそ、やや逆説的ではありますが、本会の「不易」の根幹であると考えています。

さて、上述した先端分野についても、私たちが習得して馴染みのある、言わば「拡張された力学的世界観」による理解、解釈が可能であることは明らかです。オントロジーのように一見すると機械工学とは、直接、縁のなさそうな分野においても言語空間やマハラビノス距離といった概念を導入することにより、より身近な存在となり得ます。その時々さまざまな最新技術が、皆さんにとって咀嚼可能な形式で展開されているのが本会ということになります。皆さんの先輩にあたる機械工学者は、機械製造業だけではなく製造業全般、さらに第1次産業、第3次産業においても不可欠な人材として求められ、活躍されています。改めて、日本機械学会は、皆さんと共に持続的に成長発展していきたいと考えています。本会には、学生員から正員への会員資格継続特典があり、会費減免措置、講習会聴講料の減額措置があります。是非、活用してください。

末筆ではございますが、ねじあわせの取り組みにご賛同頂きましたスポンサー企業に、深く感謝申し上げる次第です。